



FUCHU

・今号は、A3で裏表6ページの構成になっております。
昨年12月から今年1月まで『中国新聞セレクト』に掲載された「高校人国記 全5回」を掲載しました。（広島在住の皆さまは既にご覧になっているかもしれません）
各方面で活躍されている同窓生の多いことにびっくりなさる筈です。同期や先輩・後輩の活躍ぶりをじっくりお楽しみください。
裏面からは、見開きでご覧ください。
（中国新聞社の許諾は得ております）

令和4年度東京支部総会・懇親会を開催します

日時：令和4年5月28日 土曜日
14時30分から16時30分まで（2時間）
場所：学士会館（千代田区神田錦町3-28）
会費：3,000円（※お酒、お食事のご提供はございません）

2年間開催を見送ってきましたが「WITHコロナを前提に、安心して交流を深められる総会・懇親会とする」ことを基本に検討し、以下の通り対策を施して実施致します。

- ・総会・懇親会の時間短縮
- ・アトラクションの中止
- ・高校・本部等からの来賓招待の中止
- ・懇親会ではアルコールや食事の提供なし
- ・国・都の感染拡大防止ガイドラインに沿った運営

久しぶりに同窓生が集う場の提供に努めます。
例年よりもかなり早い時期で恐縮ですが、
出欠のご返事を2月10日までにハガキかメール
かお電話で、お知らせください。

メール：yo_hase@mac.com
電話：080-4001-8024 広報・名簿管理担当 長谷川陽一（57年卒）宛て



恩師ならびに卒業生の作品寄贈

東京支部では、本部同窓会からのご援助の下、学校図書館への寄贈活動を続けております。東京支部会員に限らず、全ての同窓生・恩師の作品について、情報がありましたら、総務担当幹事（小田 昌一 50年卒）までご連絡ください。
090-2759-0116 sodasoda005@gmail.com

今年度（令和3年10月末） 図書館寄贈済みの作品一覧

- ・50年卒 佐藤 忍 様
「日本の外国人労働者受け入れ政策 人材育成指向型」
- ・52年卒 河原 雅彦 様
「物知り博士」（Mr.Know-All）DVD
サマセット・モーム
「物知り博士」（Mr.Know-All）と
プロコルハルムの「青い影」について CD
- ・57年卒 佐藤 真澄 様（佐藤 美由紀 様）
「憎しみを乗り越えて ヒロシマを語り継ぐ近藤紘子」
「たとえ悪者になっても ある犬の訓練士のはなし」

通信連絡賛助金を頂いた皆さま

（令和2年11月から令和3年10月末まで）

この東京支部会報は、皆さまからの通信連絡賛助金によって支えられております。同封の振込用紙にて、引き続きのご協力を何卒よろしくお願いいたします。（卒業年順：年次内順不同 敬称略 （旧姓））

| | | | | | | | |
|---------------------------------|--|--|---|---|---|---|--|
| 22年卒 大塚 欣二 | 31年卒 重田 弘毅 山崎 令氏 | 37年卒 神谷 俊男 香山 拓子 (瀬尾) | 41年卒 品川 裕明 野村 卓三 宮本 武則 萩原 洋子 (木下) | 45年卒 小川 修司 木村 久丹彦 高橋 宏 細川 修宏 | 東 千明 (小田) | 高井 信子 (稲垣) 高尾 幸江 花山 照子 (榎田) | 57年卒 石岡 裕子 (小川) 田邊 禎二 |
| 24年卒 松坂 隆之 | 32年卒 松尾 保 (宇佐美) | 前川 雪子 (白井) | 42年卒 石川 みちえ (千葉) | 46年卒 杉山 鈴香 (戸田) 津田 雅子 (山手) | 49年卒 石岡 義章 殿元 清司 藤原 和明 藤原 和嘉 宮坂 初恵 (福地) | 原田 実能 三藤 裕子 矢倉 靖子 (佐々田) | 58年卒 木川 晃子 (能宗) 名越 美保 (山口) |
| 26年卒 宅味 大治 | 33年卒 山崎 章二 | 38年卒 甲斐 弘己 佐藤 義雄 山本 美美子 (小森) | 44年卒 奥田 操 川部 武郎 木原 政子 (猪花) 原 美知子 (名和) | 47年卒 今川 修吉 影山 修一 鈴木 瑞恵 (藤井) | 50年卒 谷本 修 藤本 睦 | 53年卒 小川 由美子 (柿本) | 60年卒 比羅岡 亮 |
| 27年卒 無記名 | 34年卒 森川 裕司 | 39年卒 下 勝 | 44年卒 大本 知治 掛江 実 岸房 隆行 近藤 宣行 (大元) | 51年卒 田辺 吉昭 田辺 俊美 (神原) 藤原 善充 森田 育宏 山上 明美 (中居) | 54年卒 中村 豊 平山 八広 | 55年卒 小野 恵美 (柴床) | 61年卒 高橋 弘一郎 |
| 28年卒 神田 庄二 桑田 弘也 | 35年卒 小川 英光 唐川 安弘 国松 浩子 (森信) 高橋 通央 | 40年卒 植岡 宏三 鎌倉 康裕 木村 茂治 小倉 玲子 (小川) | 44年卒 大本 知治 掛江 実 岸房 隆行 近藤 宣行 (大元) | 52年卒 河原 雅彦 神谷 達也 亀山 澄美 (菊岡) | 54年卒 中村 豊 平山 八広 | 55年卒 小野 恵美 (柴床) | H11年卒 寺川 光洋 フジモトユウジ |
| 29年卒 田中 忠夫 森信 節子 宮原 是中 | 36年卒 坂本 和子 (赤毛) 末村 正義 | 40年卒 小原 匡世 数本 達雄 山村 民枝 (鎌倉) | 48年卒 西村 文子 宮崎 孝直 宮崎 千代子 (松坂) 門田 博文 | 52年卒 河原 雅彦 神谷 達也 亀山 澄美 (菊岡) | 54年卒 中村 豊 平山 八広 | 55年卒 小野 恵美 (柴床) | H13年卒 井沢 梓 (神田) |

同窓生の近況・高校時代の思い出など

40年卒 木原 政子（猪花）
青春に繋がる手法として、会報はとても楽しみにしています。
私は定時制に通いました。あの校門から帰る仲間とは逆に入ってゆきます。当時学校の隣にあった山陽光学で8時から17時まで就労、17時30分食事・着替えをして校門をくぐる頃には、昼間の遅い仲間が帰る時刻でした。不思議なことに、自分は「働いて学んでいる」と胸を張って学び舎に向かいました。入学時の仲間は卒業時には半分位？
4年間夜学で学び卒業。そのことは人生の屋台骨となりました。山陽光学の寮から見下ろす芦田川の光景は、困難に向かう無限の力です。

40年卒 錦古里 素子（佐藤）
自宅で着付け教室・トールペイント・クッキングサロンなどを開いています。旧古河庭園が近いので着物で散策するプランもあります。ご興味がある方はぜひ体験なさって欲しいと思います。もちろん着物はレンタル致します。

訃報

謹んでお悔やみ申し上げます

- 19年卒 大永 勇作 様
(元支部長)
- 27年卒 井上 千歳 様
- 33年卒 佐藤タカ子 様
- 38年卒 小田 史人 様
- 47年卒 檜崎 洋子 様

同窓会開催情報

本部同窓会 令和4年11月13日 開催
府中市総合体育館（TTCアリーナ）
お問い合わせ先：本部同窓会事務局
fkou.100@true.ocn.ne.jp

広島支部 お問い合わせ先：龍田幹事長
ryocca0831@yahoo.co.jp

関西支部 お問い合わせ先：橋高幹事長
hkittaka@yahoo.co.jp

編集後記

複数のきっかけで、25年振りのゴルフ熱。若い頃は思わなかったゴルフの奥深さ、女子プロ選手の活躍ぶりに感心しながら日々練習を重ねております。
また、自分に合う色をコーディネートしてくれる人と巡り会い、「ゴルフゴルフしていない」「自分では絶対手にしない服」を選んでもらい、大満足しています。（長谷川）

発行人住所 〒112-0011
東京都文京区千石2-44-16
発行人 長谷川 陽一
広報・名簿管理担当 昭和57年卒



創設108年目を迎える府中高校。府中高女、旧制中学などを始め、これまでに3万6千人を超える卒業生を送り出した



＜校名＞広島県立府中高等学校
 ＜所在地＞府中市出口町698
 ＜校長＞古前勝教（24代目）
 ＜クラス数＞各学年6クラス。いずれも普通科
 ＜生徒数＞689人（2020年度）
 ＜校名の変遷＞1912（明治45）年、芦品郡立実科高等女学校▽20（大正9）年、芦品高等女学校▽23（同12）年、県立府中高等女学校▽43（昭和23）年、県府中高等学校＝以上、府中高等女学校
 21（大正10）年、県立芦品中学校▽23（同12）年、県立府中中学校▽48（昭和23）年、県府中高等学校＝以上、旧制府中中学校
 49（同24）年、県府中高等学校と県府中実業高等学校を廃し、県府中高等学校▽68（同43）年、現校名に
 ＜校章＞平和と文化を象徴するハトとペンを区画化し、その上に「高」の文字を配置している。

高校人国記

府中高校（府中市）①

アートや文学で 多彩な人材光る



美術作家高橋義。本年度の文化功労者に選ばれた

戦後の府中市には、東京などから疎開した画家や彫刻家たちが集まり、熱気にあふれていた。

その一人、二科会の洋画家北川実（1908～57年）との出会いで芸術の道に進んだのが、抽象絵画や立体作品などで国内外に知られる美術作家高橋義（90）だ。本年度の文化功労者に選ばれた。

絵は得意だったが、小学時代に「コンクリートのために練習させられ、絵が嫌いになった」。たまたま戦中の旧制中学時代は才能を賞われ、動員先の銃下でネジなどの製造をさせられたほどだ。

北川との出会いは卒業後、化粧品の訪問販売を始めた頃だった。アトリエを訪ね、ピカソなどの画風に衝撃を受けた。「探し求めていたのは、この世界」

武蔵野美術学校（現武蔵野美術大）に籍を置いたが、「（授業が）物足りない」と独学の道を歩み1961年、新人洋画家の登壇門とされる安井賞を受賞。挿絵などの注文が増え、「自分本位の仕事ができなくなる」と感ずる。

イタリアを拠点に41年間、活動を経て2004年に帰国。倉敷市にアトリエを構え、若手芸術家と創作活動を続ける。「常に自分を自由にしたい。どこにもつながらない立場で暮らしていきたい」。少年時代から変わらぬ思いを語る。

北川たちと府中造形美術家協会を設立した洋画家中山一郎（1911～95年）と知り、その後作家デビューを果たすが、中山茅葉子（93）。夫の療養生活と家族の葛藤をつ

常に自分を自由にしたい



中山茅葉子

づつた小説が74年、中央公論文芸新人賞の佳作となった。井上光晴に師事し88年、仲間と同人誌「ふくやま文学」を発刊した。

府中高校の前身の一つ県立府中高等女学校を卒業後、地元で開かれた展覧会で二部と出会う。仲間10人で女子美術協会をつくり、一歩一歩のイベントを主催した。北川のアトリエにも出入りし「芸術をめぐる議論を聞くのが楽しかった」。疎開した画家たちは再び上京するが、その一時期の熱気も作品化した。



アキラ・タカウエ

府中高校にその後も、芸術家を輩出した。世界規模の写真コンテストで最優秀賞を獲得するなど、国際的な評価を受ける写真家アキラ・タカウエ（49）も上頭だが、その一人、ロンドンにアトリエで世界各地の長大橋などの設計に携わりながら、専門家の視点から橋など構造物を撮影し芸術写真に仕上げている。

高校時代、瀬戸大橋が開通した。「こんな大きな物が通れるのか」と感動した。大学、大学院と構造物工学を学び、技術者としてインドやトルコ、中国などの長大橋設計に関わった。写真始めたのは「竣工式の写真を外部に頼んでいたが、技術者である自分が撮影するのが一番いい」と考えたから。2011年、ブライアン政府から写真使用の申し出があり、その高評価から建築写真に打ち込み始めた。

2年後のインターナショナルフォトグラフィアワード（米国）建築写真4部門で最優秀賞に。その後建築写真で多数の賞を獲得。昨夏に東京で開いた個展で「原点となった」瀬戸大橋の写真も出した。「今後は国内の歴史的な建築や自然の風景も撮りたい」。京都・北花街の一つ、祇園東が毎年秋に行う

みっちり仕込んでもらった教えが生きている



渡田律

開業「祇園をどり」でこの15年間、構成・脚本を追っているのが、渡田律（41）。東京芸術大、大学院で日本舞踊の伴奏に使う三味線音楽演奏を専攻し、藝名は「清元延佳月」。演奏による創作をテーマにCD出版、講演とコラボする試みなど幅広く活動を展開してきた。

「高校時代、土俵の先生に、邦楽の作詞に欠かせない文法をみっちり仕込んでもらった教えが生きている」。現在は東京から横浜市に拠点を移し日本舞踊も指導。「舞台芸術を通して日本の美を知ってほしい」



貝原司研

前衛書家貝原司研（83）は書道部活動はもちろんだが、父は教師の日毛に作品を持参。「『よく熱心に書いてくるの』と励まされ、夢中になった。高校生活を対象にした全国コンテストで首位を2度、受賞。1975年には毎日書道展でグランプリを獲得。「高校の先生からコンテスト出品を勧められたり、先生が招いた匿名な書道家との出会いがあったりしてこそ」と振り返った。

（編集委員・杉本貴）

今回は18日に掲載します。

「高校人国記」は広島、山口両県を中心に回って、高校ごとに話題の卒業生を紹介していきます。各校の情報をメールなどでお寄せください。宛先はT730-8677広島市中区上横町7-1、中国新聞編集局「高校人国記」係。メールは、dokou@chugoku-np.co.jp

高校人国記

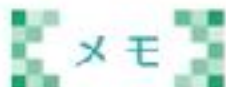
府中高校(府中市)②

音楽部の定演

プロへの原点



練習に励む府中高校音楽部。バイオリンとチェロなどを演奏する人が多く



くかつての卒業生(学術文化、音楽関係一時的在籍者を含む)＜山代巴(1912～2004年)小説「荷車の歌」で知られ、農村文化運動や原水爆禁止運動にも取り組んだ▽木下夕陽(1914～65年)詩人。戦後、広島県詩人協会の初代会長を務めるなど地元文壇の復興、発展に尽くした▽平参平(1916～85年)吉本新劇座座長▽松本英彦(1926～2000年)ジャズテナーサクソフォン奏者。戦後のジャズブームをつくった一人▽日野啓三(1929～2002年)芥川賞作家。「抱擁」「夢の島」などの小説で知られる▽栗原道水(1931～2010年)書家。日本書芸院名誉顧問、日展常務理事▽松岡信夫(1932～93年)市民エネルギー研究所代表。自主講座「公害原論」に参加するなど環境・エネルギー問題に取り組んだ

高校時代に年輩を指導したのが、読売日本交響楽団(読響)のコントラバス奏者樋口誠



樋口誠

高校3年で「本格的に音楽をやりたい」と東京芸術大へ。フルートを専攻し2002年にN響入り。「高校で通ったボシジョンであるチェロをやり、オーケストラの全体をみる」ことができたようになった

「定演を聴いて、すごいなあ、と思った」というのは、NHK交響楽団(N響)首席フルート奏者の甲斐雅之。中学のクラスバンドではフルートだったが、音楽部では「先輩が引退して誰もおらず、(オーケストラの前列である)センターポジションがとれる」とチェロを選んだ。

早稲、放浪後と音楽部でチェロの練習を重ねたのは、フルートも地元でレッスンを続け、新幹線で東京のプロにも通った。高校2年のクラス対抗合唱コンクールではフルートのソロ演奏を披露し、会場を「おお」と沸かせたという。

多くの卒業生が「母校にはオーケストラがある」と誇るのが、60年の歴史を重なる音楽部(交響楽団)だ。府中市文化センターで毎夏、プロになった卒業生も交えた定期演奏会を開く。この音色に魅了され、進学を決めた音楽家は少なくない。



NHK交響楽団首席フルート奏者の甲斐雅之

古里の演奏家とのコンサートを増やしたい

千歳を音楽部に誘った同級生が、地元の府中シティオーケストラで団長を務める小林洋三(61)。家庭の事情から音大を断念し進んだ広島修道大の2年の時、有志でアマチュアオーケストラをつくった。就職で1981年にリターン。4年後に音楽同好会としてスタートした府中シティオーケストラに加わり、2000年から団長になった。「卒業生も参加するコンサートなどをこれからも続け、地域の音楽文化を発展させたい」と力を込めた。



小林洋三

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団のホルン奏者だった千歳正規(63)は5年前に引退。現在は千歳野田市の吹奏楽団で指揮者を務める。「高校が原点だった。部活の延長で演奏を楽しんでいた」という。

音楽教師から「上達が早い。プロも夢じゃない」と言われ、担当したホルンの奏者を目指す。ところが希望する音大は、経験のないピアノが必須。早期練習で部員が集まるまでの間にピアノを弾き、昼休みも「音に耽れて」練習を重ねた。武蔵野音楽大3年の時、1番練習に、高校の定演でホルンのソロを成功させた記憶が、本番でよみがえった。「うまくいった。プロでやれる確信が生まれた」



千歳正規

「引」だった。エリザベト音大で聴衆生として学び、1992年に新日本交響楽団入り。99年、読響に移った。福山市神辺町出身。中学時代、バスで定演を聴きに行き、魅了された。「私も中学はチェロだった。コントラバスは高校から。包み込むような響きが好きになった」という。「今後は古里にいる演奏家とのコンサートを増やしたい」と地元での活動も力を入れる。

地域の音楽文化の発展に貢献

「高校人国記」は広島、山口両県を中心に回って、高校時代に活躍した卒業生を紹介しています。各校の情報をメールなどでお寄せください。宛先は〒730-0827 広島市中区土橋町7の1、中国新聞編集局「高校人国記」係。メールは bokor@chunichi.co.jp

次回は1月1日に掲載します。

(編集委員・杉本昌)

音楽部以外でもクラシックの世界に入った卒業生はいる。ソプラノ歌手村上彩子(中)は、高校とプロのテノール歌手の個人レッスンを受けて、大阪音楽大音楽科に進んだが、「他の学生との実力差」を感じ、卒業後は人材派遣会社に就職した。しかし、「ちゃんと音楽を勉強したい」と30代で東京芸術大音楽科に入って学び直し、歌手デビューを果たした。現在は主に西日本でソロコンサートを開いたり、市民会館で発声の指導をしたりしている。

NPO法人日本茶インストラクター協会から16年、フランスでの初代日本茶大使に任命された。「日本茶ってこういうもの」と思われたい」と、パリで開かれる日本茶コンクールの監修などを担う。



能宗ルン美佐子

フランスでピアノ奏者として活動しながら、日本茶の魅力を広げる講演会などをしていくのが、能宗ルン美佐子(57)。高校、武蔵野音楽大とピアノを続け、群馬交響楽団入り。その後、フランス人音楽家と結婚し07年、移住した。「フランスで飲む日本茶は水質が違い、おいしくなかった」と日本茶を学んだ。

高校人国記

府中高校(府中市)③

地歴部の情熱

研究者育てる



1923年に完成した、旧制府中中学の新校舎。この18年後に、地歴部の前身である社会科研究部が生まれた。



＜かつての卒業生(地歴部関係、時在籍者を含む)＞豊元国(1914～84年)母校の旧制府中中学で教師となり、赴任翌年の1941年、のちに地歴部となる社会科研究部を創設した。70年の退職まで母校地歴部を率い、県東部などの遺跡・遺物の発掘を続けた▽植田心壮(1929～2019年)岡山市立オリエント美術館長▽甘粕健(1930～2012年)日本考古学協会会長、新潟大名誉教授。戦中に母の実家に疎開し、旧制府中中学に在籍した▽近藤正(1934～74年)島根県教委で山陰古代文化の研究に尽力▽高橋美久二(1944～2006年)滋賀県立大名誉教授。古代山陽道研究の第一人者として知られる。



アンモナイト研究の第一人者である
重田康成

かつては遺跡の発掘現場にも通った地歴部は、80年の歴史を持つ。戦後の広島で考古学の一角を担った豊元(旧制府中中学出身、故人)が教師として母校に赴任し、1941年に創設した社会科研究部が始まり。これまで考古学者を輩出し、古生物学者になった研究者もいる。

「高校では遺跡や土壌の発掘に夢中になり、興味をさらにエスカレート。化石や動物に魅了され、大学でアンモナイトにたどり着いた」。古年代から中生代にかけてのアンモナイト研究で第一人者とされる重田康成(59)は自らの原点をこう切り出した。現職は、国立科学博物館環境変動史研究グループ長。アンモナイトは恐竜とともに絶滅したと考えられており、化石はその時代の海洋環境や生態系を探る手掛かり。手付かずの地層に残るロシア極東地域をはじめ、アラスカやベトナム、フィリピン、タイにも軒を、アンモナイトを産する。国内でも北海道で新種のアンモナイトを発見した。高校の進路指導で「化石を研究したい」といふと、教師から「おまえは変わっている」と言われたという。愛媛大理学部地球科学科に進み、研究室で見たアンモナイトの「華しさ」に心を奪われた。東大大学院でさらに研究を深めた。

北海道の博物館職員を経て04年に国立科学博物館入り。「化石は現在の生物多様性や生態系の成り立ちを理解する上で重要なヒントを与えてくれる」。ハンマーを手に、世界各地でアンモナイトを追い続ける。多くの卒業生たちが大学で考古学を学び、口伝で全国各地で埋蔵文化財の発掘に当たった。

遺跡や古墳の発掘に夢中だった



井上弘

元広島県教育事業団埋蔵文化財調査室長の篠原芳秀(71)は新潟大で地質動物学を学び、71年に県教委へ。2年後には足尾銅毒の草戸千軒町遺跡調査所(福山市)に移り、芦田川中州の発掘に取り組んだ。「中国道建設に伴う発掘が増え、行政による発掘の機会もあった」。

その後、県立歴史博物館(福山市)の開館準備にも関わった。再び草戸千軒町遺跡研究所に戻り、4代目所長だった2004年、出土品の重要文化財指定が決まった。「所長に就任し、土器や土製品に目を通し、寸法や重量をカードに書き込んだという」。



篠原芳秀

「豊先生と一緒に古墳を回り写真に収めた。印刷原稿にするため測量図にトレーシングペーパーを置いて線をなぞった。夏休みには先生の自宅に通ったり、学校の図書館で作業を続けたりして応募したという。地歴部ではなかったが、考古学に進んだ」。

「草戸千軒町」調査に多数参画



田辺英男

人材もいる。島根県埋蔵文化財センター発掘事業係長の下江健太(45)は、豊先生の教えで父から歴史の話を聞き、興味を持った。岡山文学部の考古学コースに進み、地歴部出身の研究者の多さを知ったという。

地歴部の成果である土器などの発掘資料は、校内の「二校博物館」に展示されていたが、89年に県立歴史博物館に移された。その資料の一部がこの夏、県立歴史民俗資料館(三次市)で展示された。

元地歴部員で館長を務める田辺英男(59)たちの企画だ。母校をはじめ、三次、日影、可部、計4高校の考古学研究を、土器などのほか、当時の報告書やパネルなどから交えて紹介した。考古学に魅了された高校生の熱意を知ってほしい」と来館者を案内した。小学6年の頃、川辺で土器を見つけ、考古学に興味を持った田辺が母校を選んだのは「地歴部があったから」。奈良大文学部文化財学科に進み、県教委入り。草戸千軒町遺跡の発掘に携わったほか、社会科教師として赴任した同原高校(安芸高田市)では、遺跡を訪ねる歴史巡回授業を実施するなど体験重視の教育にこだわった。

近く、先の篠原を歴史民俗資料館に招き講演会を開く。当時の高校生の様子を、かつての部員の声で紹介したい。『敬称略(編集委員・杉本寛)』

次回は1月1日に掲載します。

「高校人国記」は広島、山口両県を中心に回って、高校ごとに話題の卒業生を紹介していきます。各校の情報をメールなどでお寄せください。宛先は「〒730-0867 広島市中区千軒町1-1、中国新聞編集局「高校人国記」係」。メールは、bokou@chugoku-np.co.jp

高校人国記

府中高校(府中市)④

経済界で飛躍

青春時代に礎



府中高校グラウンドでは野球部をはじめ、生徒たちが練習に励む



＜かつての卒業生(政治経済)＞ 浦上豊(1909～72年) リョービ創業者▽岡崎平夫(1909～93年) 1963年から5期20年、岡山市長を務めた。全国市長会会長▽安原真二郎(1911～80年) 農産物乾燥機専業メーカー大紀産業＝岡山市＝創業者。古代オリエントの美術品収集家として知られ、コレクションの岡山市への寄贈が市立オリエント美術館開設につながった▽北川一也(1927～2017年) 北川鉄工所名誉会長、日本工作機器工業会長▽谷口隆志(1931～2010年) 労働事務次官、労働福祉事業団理事長▽青山五郎(1930～2008年) 青山商事創業者



ハローズ社長の佐藤利行

山陽自動車道草島インターチェンジそばに本部を構え、瀬戸内経済圏で24時間スーパードレスを展開するハローズ。発祥は府中市。創業者の父から社長を引き継ぐ佐藤利行(57)の青春時代は、各社がしのぎを削るスーパードレス期だった。

前身である府中スーパードレスの設立は1958年。「スーッと出て、パッと消えるからスーパードレス」と、やけに「スー」を連発する佐藤が、府中市でスーパードレスの店を出し経営は苦しかった。このため母が焼き肉店を開く。

高校時代、母が大けがをし長期入院。平日は洗いや掃除を引き受け、休日は移動販売車で府中市内を回ってスーパードレスの店を出した。焼き肉を「お礼」に、洗い場は同級生たちも手伝った。

大東文化大を卒業後、父のスーパードレスに入り91年から社長。他社との競争で「青水の陣」だった93年、現職先のハワイで24時間スーパードレスの夜勤勤務に就いた。いち早く導入、ビジネスモデルを確立した。現在は、近い将来の目標として瀬戸内商圏で180店舗、売り上げ3千億円と現状の倍増を掲げる。「高校は同級生、今は社員と情に助けてもらっている」と感謝を忘れない。

ソフトウェアの品質保証・テストを手掛けるSHIFT(シフト)社長の丹下大(46)は2019年10月、東証一部上場を果たした。05年に一人で起業し、エンジニアだけで4300人を超える企業グループに成長させた。高校ではサッカー部で練習漬け。「上手な仲間が多かったが、ムードメーカーを

同級生や社員への感謝忘れない



岸原康行

カイハラ(福山市新市町)会長の岸原康行(57)は、かつてからチームの戦況への転機に開いた。高校時代は、書道部に所属し「あまりうまくなかったが一生懸命やった」。一方で、夏や冬の長期休暇中はかすりの系の集荷など家業を手伝った。成城大経済学部では助教授をきっかけに大学の合宿に入り、他の大学の交流で買えた校章が、その後の会社の取引でも役に立った。



貝原良治

果たした。週末は友人の家に集まり、明け方近くまでテーマを決めて議論を重ねた。「府中市長になら何をするか」などがテーマだった。「朝まで生テレビ」のように議論して楽しかった。



SHIFT社長の丹下大

週末は友人の家で明け方まで議論



若井研治

またスポーツでは、元サンフレッチェ広島で、現在は福山平成大でサッカー部監督を務める若井研治(46)がいる。先の丹下と同級生。「中学時代に近隣の中学のサッカー部員に声をかけ、皆で高校に進んだ」といって、県大会新人戦で初優勝を果たした。また、筑波大硬式野球部投手の奈良木隆(27)は本年度、プロ野球巨人から育成ドラフトで9位指名を受けた。

（編集委員・杉本貴）

今回は1月8日に掲載します。

「高校人国記」は広島、山口両県を中心に回って、高校区に話題の卒業生を紹介していきます。各校の情報をメールなどでお寄せください。宛先は〒730-8674 広島市中区十軒町7-1、中国新聞編集局「高校人国記」係。メールは bokou@chuugoku-np.co.jp

高校人国記

府中高校(府中市)⑤

あふれる個性
多分野で活躍

府中高校は、卒業生が多くが「自由な校風」といい、多彩な人材を送り出した。



＜かつての卒業生(スポーツ関係)＞マ村上正(1912～92年)36年のベルリン五輪で110メートルに出場した。日本陸連強化部長▽新垣善郎(1914～2008年)走り高跳びの日本初の2メートルジャンパーで33年のベルリン五輪に出場し、6位。日本陸連名誉副会長▽根来広光(1935～2003年)プロ野球国鉄浦和、金田正一投手の女房役として活躍した。

＜公益財団法人洞上奨学会＞旧制府中中学出身でリョービ創業者の浦上豊(故人)が県東部での若手人材育成を目的に1970年設立し、高校、大学に進学する生徒への奨学金貸与を始めた。その後、県内の大学進学、留学生などにも広げ、これまでに国内外で約1100人の学生を支援してきた。現在は豊の長男でリョービ相談役の浦上浩(84)＝府中高校出身＝が2代目理事長。2010年度の府中高校講堂改修も資金面で支援した。貸与奨学金は今年4月から給付に切り替える。

イラストレーター、ヒラノトシユキ(29)は大阪市デザイナー専門学校で絵を基礎から学んだ。20



ヒラノトシユキ

アニメーター安藤雅司(51)はこれまで、アニメ映画「君の名は。」のほか、「もののけ姫」「三と一雉の物語」などスタジオジブリの作品で作画監督を務めてきた。今年中の劇場公開を目指すアニメ映画「風の王」では、初の監督に挑んでいる。

「見た人の視野を広げる作品をつくりたい」が変わる。信美、中学時代に広島県で見た、宮崎駿監督の「風の谷のナウシカ」が原動力。高校時代に「小淵」をたたく「ピタゴラス」を買い、アニメを何度も見た。書店でアニメ雑誌を買い求めた。「ナウシカ」の感動を体験したかった。

日本六芸学部3年の時、スタジオジブリ入りし、2003年からフリーに。高校時代の思い出に、通っていた塾での読書会をあげた。「銀河鉄道の夜」などを題材に、自分たちに都合のよい読み方をしなく、別な角度から解釈する大切さを学んだ。

少女漫画雑誌「りぼん」を「心に響いた漫画家、もじりたしゅん」は1977年代、子ども向けだった漫画雑誌にラノベテイを混入。高校生や大学生へとファン層を広げた。日本六芸学部に進むが、専攻の機械で「限界」を感じた。「高校時代、漫画を回し読みしていた仲間から漫画家になった」と言われた言葉を思い出し、「漫画家を志望した。14年前に現役を引退、漫画家である夫の仕事を手伝う。



アニメ映画「君の名は。」やジブリ作品で活躍するアニメーター安藤雅司

見た人の視野を広げるアニメ作品づくりたい



甲斐等

10年に東京・表参道のH&Pギャラリーで大賞を獲得。その後、故井上ひさしの児童書「少年口伝(一九四二)」「(一九四三)」でイラストを担当した。原爆投下後の広島を舞台とし、焼け野原の街や、大勢に二二二を伝える少年の姿を描いた。「目の前の絵で感動や、井上さんの言葉をひきあえなければ」と感じた。

ノンフィクション作家佐藤美由紀(佐藤真澄のペンネームでも活動)はこの5年、ヒロシマにまつわる作品を立ち続けに発表した。ベストセラーになった「世界でもっとも美しい大規模 水セ・ムシカ」の言葉「(15年)を執筆する際、『ヒロシマでも言葉を残している人がいるはず。その人たちの紹介したい』と被爆地に向き合った。キヌバの革命家チニ・ゲバラとヒロシマの関わりなどを描き刊行。現在は平和のシンボルである折り鶴をテーマに取材活動をしている。



森友直士

ロックバンド「T-BOLAN」のボーカル、森友直士(55)は18年、府中市で大規模無料コンサートを開いた。西日本豪雨で被害を受けた被災地への復興を後押ししようとの試みだ。東広島市で土砂崩れのボランティアをした。「災害被害者への心の支えが目的のイベント。音楽を通して力になった」と話した。

高校時代は音楽部で活動。文化祭でフォークギターを手に弾き奏りをした時、女生徒が泣いた。「その心が動いた経験が、後のアーティストへの道につながった」という。15年から、浦和の歴史や文化を伝える府中ロマン親善大使として地域振興にも力を尽くす。

世界のバクシヤア展に取組んでいるのが、市民団体「ジニーの会」代表の甲斐等(70)。チエ

文化祭での弾き語りの経験が歌への道に

「高校人国記」は広島・上・広島を中心として、高校に話題の卒業生をピックアップしています。各校の情報をメールなどでもお寄せください。先着は73018677広島市西区下橋1-7の「広島新聞社」(高校人国記)室。メールは bokou@chugoku-nip.co.jp

府中高校は今回で終わります。次回からは広島県内各高校を掲載します。

一敬称略
(編集委員・杉本真)



杉本真子

ノアイリ原爆事故では仲間、医師を現地に派遣し、「すべての核被害をなくす」活動続ける。

学術では、理化学研究所環境資源科学研究所センターでチームリーダーを務める杉本真子(49)がいる。高校時代、自主の班に所属した1本の巨匠マヨリが数年後、約1000本に増えた。「花の大きさ、色や形がすべて同じ。この謎を解きたかった」と研究者の道へ。大阪大学で植物から植物を見える研究に取り組み、これまで植物の成長を制御するさまざまな遺伝子を発見した。東京大学大学院教授も兼任し、「花の遺伝子」をテーマに、国際共同研究に貢献したい」と意欲を燃やす。

高校の授業に合わせた方法をきつかけに「不利な立場の人々の人権」をキーワードに論文を書き続けているのは、広島大学大学院教授(憲法学)の植田誠(44)。立命館大学法学部准教授メデア論の植田豊(41)は、学際的に観点から放送メディアなどを研究している。

法曹界では、元広島弁護士会会長の小野裕伸(73)。03年、広島県の司法試験受験生として試験会委員に支給された試験調査費に「不適正」な支出があったと指摘した。政界では、元衆議院議員で部落解放同盟広島県連盟の小森雅邦(82)がいる。